



株主のみなさまへ



花王株式会社 中間報告書

2006.4.1—2006.9.30



商品の高付加価値化による“利益ある成長”をめざして

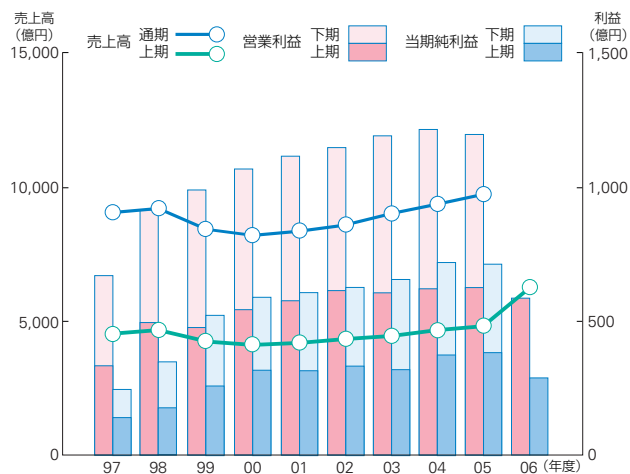
中間連結決算の概況

当中間期の売上高は、既存事業の成長と、モルトン・ブラウン社及び株式会社カネボウ化粧品が当社グループに加わったことにより、前年同期より1,194億円増加し、6,025億円（前年同期比124.7%）となりました。国内事業の売り上げは前年同期比26.7%の伸びとなりました。家庭用製品及び化粧品は、消費者及び流通の変化の中で激しい市場競争が続いていますが、高付加価値新製品の発売や積極的なマーケティング活動により、売り上げが増加

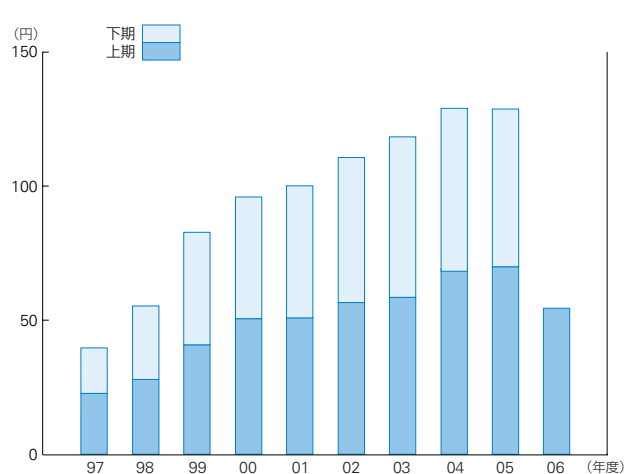
しました。工業用製品は、注力製品の伸長により堅調に推移しました。一方、海外事業の売り上げは前年同期比19.2%の伸びとなりました。日本を含めた一体運営に取り組んでいるアジアの家庭用製品が着実に回復しており、また欧米の家庭用製品及び工業用製品も順調に推移しました。

営業利益は、584億円（前年同期比92.6%）となりましたが、株式会社カネボウ化粧品関連の知的財産権及びのれんの償却費130億円を控除する前の営業利益は、714億円であり、前年同期を83億円上回りました。

連結売上高・利益の推移



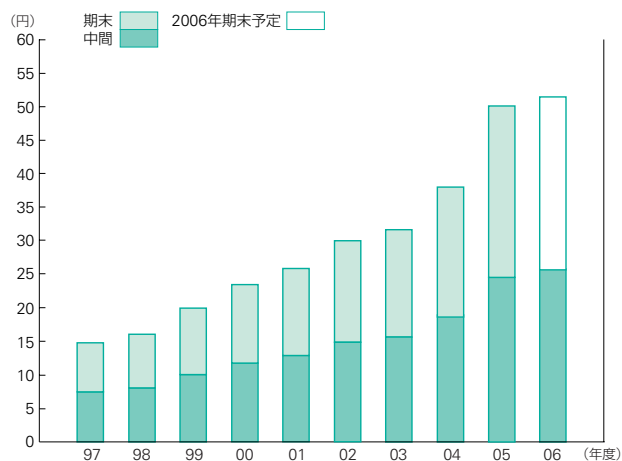
連結1株当たり当期純利益の推移



経常利益は、584億円（前年同期比91.9%）となりました。営業外損益は、前年同期の5億円の収益（純額）から、収益費用ほぼ同額となりました。これは、主として借入金や社債など有利子負債が増えたことに伴う支払利息の増加によるものです。

中間純利益は、295億円（前年同期比76.8%）となりました。税効果会計ルールにより、過去に計上した繰延税金資産の一部を取り崩し、税金費用を計上したため、中間純利益は減少しました。

1株当たり配当金の推移



2006年11月

花王株式会社
代表取締役
社長執行役員

尾崎 元規

しかし、当期の中間配当金は、営業利益、経常利益ともに当初計画した利益を確保できたことから、予定通り、前期より1円増配の1株当たり26円とさせていただきます。

今後の経営施策

当社グループを取り巻く事業環境は、原材料価格の上昇や販売価格の下落などにより、引き続き厳しい状況が続いております。しかしながら当社グループは、今後とも商品の高付加価値化による“利益ある成長”をめざし、以下の3点を最重点の事業目標として積極的な事業活動を展開してまいります。

(1) ビューティケアとヒューマンヘルスケアの事業領域での成長の加速

今後も市場の高い成長性が望め、また当社グループの強みを生かすことのできる事業領域であるビューティケアとヒューマンヘルスケアを成長のドライバーと位置付け、経営資源を集中して投下してまいります。

ビューティケア事業については、既存の事業に加えて、前期に当社グループに加わったモルトン・ブラウン社及び株式会社カネボウ化粧品とともに、グローバルに成長の加速を図ってまいります。

ヒューマンヘルスケア事業については、ヘルスケア製品において、消費者の健康志向の高まりにしっかりと焦点を絞った健康機能性食品・飲料である「エコナ」や「ヘルシア」ブランドを柱に、新製品の発売など積極的な展

開を行ってまいります。サニタリー製品においても、より一層の快適性ととも心の満足をも追求した商品の開発・提供に努めてまいります。



売上げの増加に大きく貢献した「ヘルシアウォーター」

(2) 基盤事業であるファブリック&ホームケア事業のさらなる強化・発展

衣料用洗剤、柔軟仕上剤及び食器用洗剤などのファブリック&ホームケア事業については、消費者に、より清潔に、より快適に、そしてより楽しく家事を行っていただけるような商品の開発に努めてまいります。

また、従来の商品カテゴリーの枠に捉われず、高まりつつある消費者の衛生、安心、環境志向に焦点をあわせた新市場創造型の商品開発を行ってまいります。



中国市場にも導入されたカネボウ化粧品の高級プレステージブランドの「インプレス」

(3)グローバルに特徴ある強い工業用製品事業への注力

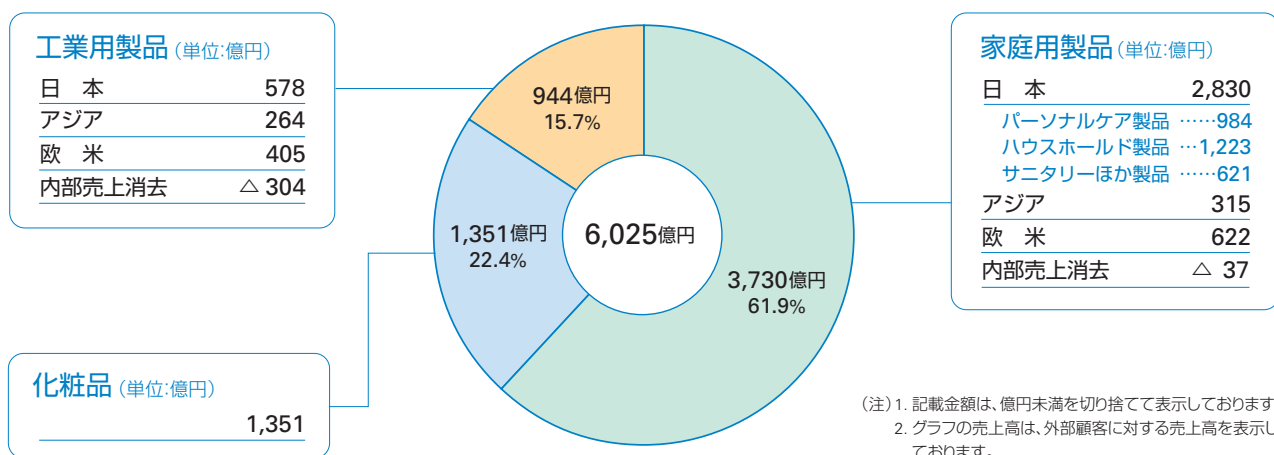
当社グループの特徴、技術が生かせる、油脂、スペシャルティケミカルズ及び機能材料の3分野に注力し、付加価値の高い製品を提供することで、顧客のニーズに応えてまいります。

日本、アジア、米州及び欧州の当社グループ各社が緊密に連携したグローバルな事業展開と、国や地域の状況に合わせたローカルな事業展開の両立を図りながら、事業の拡大と強化に努めてまいります。

最後になりますが、当社グループは、以上のような積極的な事業展開を図るとともに、企業の社会的責任（コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ:CSR）を一層強く認識し、誠実な企業活動に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、こうした当社グループの姿勢に何卒ご理解を賜り、今後とも一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

中間連結売上高構成比



財務報告の要約 (記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。)

中間連結貸借対照表

(単位:億円)

資産の部	当中間期	前期	負債の部	当中間期	前期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在		2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
流動資産	3,741	3,646	流動負債	3,135	4,361
現金及び預金	444	473	支払手形及び買掛金	1,068	965
受取手形及び売掛金	1,476	1,291	短期借入金及び一年以内に返済予定の長期借入金	442	1,894
有価証券	275	201	未払金	260	274
たな卸資産	1,081	1,058	未払費用	984	759
その他	464	620	未払法人税等	179	175
固定資産	8,528	8,558	その他	199	292
有形固定資産	2,853	2,827	固定負債	3,803	2,657
建物及び構築物	956	950	社債	999	—
機械装置及び運搬具	903	905	長期借入金	2,326	2,185
土地	670	671	その他	477	472
その他	323	300	負債合計	6,938	7,019
無形固定資産	4,592	4,662	純資産の部		
のれん	2,604	2,671	株主資本	5,465	5,307
商標権	1,582	1,562	資本金	854	854
その他	405	428	資本剰余金	1,095	1,095
投資その他の資産	1,081	1,068	利益剰余金	3,617	3,459
繰延資産	0	0	自己株式	△ 102	△ 101
資産合計	12,270	12,205	評価・換算差額等	△ 219	△ 210
			新株予約権	3	—
			少数株主持分	82	89
			純資産合計	5,331	5,185
			負債及び純資産合計	12,270	12,205

(注)有形固定資産の減価償却累計額

当中間期 8,011億円 前期 7,933億円

●自己資本比率 当中間期 42.8% 前期 41.8%

●1株当たり純資産 当中間期 962円65銭 前期 935円11銭

●新たな会計基準の導入により、連結貸借対照表における従来の「資本の部」の記載が「純資産の部」に変更されております。なお、前期末の数値につきましては、新基準に組み替えて表示しております。

ポイント

総資産は、前期末に比べ64億円増加しました。受取手形及び売掛金は、事業拡大及び中間期末日が休日のため回収が翌月となったことなどにより増加しました。その他に含まれる短期貸付金の減少もあり、流動資産合計では95億円の増加となりました。有形固定資産は、新規取得が償却費及び除売却などによる減少を上回り25億円増加しました。無形固定資産は、のれんを含む償却費が新規取得を上回ったため69億円減少しました。

ポイント

負債は、前期末に比べ81億円減少しました。支払手形及び買掛金、未払費用は、中間期末日が休日のため支払いが翌月となったことなどにより増加しました。借入金と社債の合計は、借入金の返済により310億円減少し3,769億円となりました。なお、短期借入金を長期借入金や新規に発行した社債に置き換えました。純資産は、中間純利益による増加と配当金の支払いなどによる減少の結果、前期末に比べ146億円増加しました。

中間連結損益計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期	前年中間期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで
売 上 高	6,025	4,830
売 上 原 価	2,449	2,107
売 上 総 利 益	3,575	2,723
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,991	2,093
営 業 利 益	584	630
営 業 外 損 益	0	5
経 常 利 益	584	636
特 別 損 益	△ 12	△ 11
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	572	624
法人税、住民税及び事業税等	272	233
少数株主利益(減算)	4	6
中 間 純 利 益	295	384

(注) 1株当たり中間純利益 当中間期 54円26銭
前年中間期 70円75銭

ポイント

売上高は、モルトン・ブラウン社及び株式会社カネボウ化粧品が当社グループに加わったことと既存事業の成長により、1,194億円増加しました。営業利益は、原材料価格の上昇や株式会社カネボウ化粧品関連の知的財産権及びのれんの償却費の影響により、前年同期を下回りましたが、この償却費130億円を控除する前の営業利益は、前年同期を83億円上回りました。中間純利益は、繰延税金資産の取り崩しによる税金費用の増加もあり、89億円減少しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期	前年中間期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2005年4月1日から 2005年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	857	646
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 300	△ 451
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 468	△ 154
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	10
現金及び現金同等物の増加額	74	51
現金及び現金同等物の期首残高	675	704
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加高	—	7
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 8
現金及び現金同等物の中間期末残高	749	755

ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に、株式会社カネボウ化粧品が当社グループに加わったことと、中間期末日が休日のため決済日が翌月になったことにより大幅に増加しました。投資活動では、主に、能力増強や合理化などの設備投資の支出がありました。財務活動では、主に、配当金の支払いや借入金の返済を行いました。これらの結果、現金及び現金同等物の当中間期末残高は、前期末より74億円増加しました。

中間連結株主資本等変動計算書 当中間期(2006年4月1日から2006年9月30日まで)

(単位:億円)

	株 主 資 本					評価・換算 差額等合計	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
2006年3月31日 残高	854	1,095	3,459	△ 101	5,307	△ 210	—	89	5,185
利益処分による利益配当			△ 136		△ 136				△ 136
利益処分による役員賞与			△ 0		△ 0				△ 0
中間純利益			295		295				295
自己株式の取得				△ 4	△ 4				△ 4
自己株式の処分		0		4	4				4
株主資本以外の項目の中間期間中の変動額(純額)						△ 8	3	△ 6	△ 12
中間期間中の変動額合計	—	0	158	△ 0	158	△ 8	3	△ 6	146
2006年9月30日 残高	854	1,095	3,617	△ 102	5,465	△ 219	3	82	5,331

新製品のご紹介



薬用ピュオーラ® (ハミガキ・洗口液)

清浄で健康な口内環境に整える

「薬用ピュオーラ」(医薬部外品)は、人間が本来持っている唾液の清浄作用に着目した新発想のハミガキ・洗口液です。新清浄剤エリスリトールが細菌の集合体(歯垢・舌苔)に素早く浸透し、その結びつきを弱め分散しやすくして、口中を浄化します。さらに殺菌剤BTC(塩化ベンゼトニウム)の働きで、原因菌を殺菌し汚れをつきにくくして、歯肉炎・口臭を予防します。

●ホームページのご案内

下記の当社ホームページでは、決算や新製品に関するお知らせなど、さまざまな情報を提供しております。ぜひご覧下さい。

<http://www.kao.co.jp/>

●株式に関するお問い合わせ先(株主名簿管理人)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター

☎ 0120-78-2031 (受付時間:平日9:00~17:00)



エッセンシャル® ダメージケア ニュアンスエアリー／リッチプレミア

毛髪保護成分の高純度ハニー&プロテインが、傷んだ髪のダメージホールに浸透し、毎日の髪の基礎コンディションをアップさせ、さらに毛先まで強くやわらかにし、切れ毛・枝毛も予防します。仕上りの好みに合わせて、ふんわり軽やかにまとまるニュアンスエアリーと、落ち着いてしっとりまとまるリッチプレミアの2タイプからお選びいただけます。

●お手続き用紙のご請求について

住所変更、名義書換請求、単元未満株式買取・買増請求及び配当金振込指定等に必要の各用紙のご請求は、株主名簿管理人の下記のフリーダイヤル及びホームページにて24時間受け付けております。

☎ 0120-87-2031 (自動応答)

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

(注)証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引のある証券会社にお申し出下さい。

花王株式会社

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10
2006年11月

